

I 本校が目指す姿

① 学校の現状や課題

昭和18年、旧制秋田県立湯沢中学校として創立され、「師弟共励」を建学のこころとして、多くの有為な「人財」を輩出してきました。平成18年度より理数科が併設され、普通科と理数科の2学科編成になりました。生徒はそれぞれの科で各自の夢の実現に向け学習しています。湯沢雄勝地区は県内でも人口減少と少子化が急速に進んでいる地区です。そのような中で、本校は湯沢雄勝地域の進学を中心校として今後も地域住民や同窓生の御協力をいただきながら、小・中学校や大学との連携を深め、生徒や保護者の希望を実現し、地域の期待と信頼に応えられる学校であり続けることが求められています。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化が進んだ場合には部活動や学校行事などにも影響が出てくることが予想されます。地域と連携を強化しながら、特色ある教育活動を展開していく必要があります。

③ スクール・ポリシー

i) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

自身のキャリア形成に積極的に取り組み、高校卒業後も様々な機会を通して主体的に学び続けられる生徒の育成を目指します。

また、キャリア教育の視点を重視した、社会に開かれた教育課程を実施し、地域の皆様と協力しながら日本や世界にとって有用な人財を輩出するような、地域の皆様があこがれる学校となることを目指します。

ii) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

本校では大学進学希望を主として、基礎から応用まで幅広く対応した教育活動を展開しています。総合的な探究の時間を中心として、変化の激しい社会にもたくましく対応していけるよう、粘り強く物事に取り組む力と変化に対応する応用力を鍛えていきます。また、情報活用能力の育成として、令和4年度入学生から「デジタル探究コース」を設置し、1年生全員、来年度からは2年次の希望者を含め、データの収集・分析やデジタル技術に関する講座を展開します。

1年次は「普通・理数科」として入学し、基礎的な力を身に付け、自己理解と進路選択についての知識を深めます。様々なガイダンスにより2年次に進む学科・類型を決めていきます。

2、3年次は選択により普通科と理数科のいずれかに進級します。

普通科は「文型」「理型」の2コースから選択します。大学への進学を主として、生徒自身の進路希望を達成するのに必要な学力を身に付けます。

理数科は、普通科理型よりも理科や数学をもっと広く、かつ深く学びたい人が進み、理数系学部への進学に対応できる学力を身に付けます。

iii) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

本校は、4つの校訓「1. よく学びよく遊べ 2. 互いの意見を尊重せよ 3. 真実を尊び正しく歩め 4. 報恩の誠をいたせ」の下、湯沢雄勝地域の拠点校として、学習意欲に燃え秋田と日本の発展・成長を力強く牽引できる生徒の育成に向けて、建学のこころである「師弟共励」を生徒・教職員ともに心に刻み大切にしながら教育活動を実践しています。

さらに、校訓から導き出された生徒に身に付けさせたい力を「湯高力」と名付けており、これを基に、次の1～4に当てはまる生徒を求めています。

- 1 多くの知識を身に付け、様々な課題に向かい、分析・判断し、解決策を見いだすことができる生徒。
- 2 相手の立場を尊重し、集団の中で他者との相互理解を深め合いながら行動することができる生徒。
- 3 世の中との関わりを大切にし、社会の課題を自らのものとして多角的に捉えることができる生徒。
- 4 社会の一員としての自覚と、高い規範意識をもつことができる生徒。

*湯高力とは、湯沢高校生に身に付けてもらいたい力として校訓から導き出されたものであり、次の八つです。

- | | | | |
|-----------|------------|----------------|---------|
| a 「知識・技能」 | b 「課題対応能力」 | c 「論理的思考力」 | d 「対話力」 |
| e 「協働力」 | f 「自己管理能力」 | g 「前向きにやり遂げる力」 | h 「公共心」 |

Ⅱ 5年間通しての具体的な目標と取組

① 5年間を通しての具体的な目標

学力を学校活動の中で身に付けるべき力ととらえ、すべての学校活動を充実させます。そのために湯高力を核に据えながら、生徒の学力の伸長を図ります。

1 進路志望の達成と進学実績の向上

- (1) 国公立大学現役合格者を希望者の60%
- (2) 指定国立大学（東北大学や東京大学など9校）へ複数名の合格
- (3) スーパーグローバル大学に指定された私立大学（慶応大学や早稲田大学など14校）への複数名の合格
- (4) 医学部医学科へ複数名の合格

2 部活動の強化

各部活動等の全国大会等での活躍

3 地域との連携の強化

② 目標を達成するための具体的な方法・取組等について

1 学力の向上

- (1) すべての学校活動で湯高力を核に据えて実施する
- (2) 50分7コマによる授業の充実
- (3) ICT機器の活用による主体的・対話的な学校活動の実施
- (4) 教科の探究活動と総合的な探究の時間の相互リンクによる探究活動の充実

2 進路志望の達成と進学実績の向上

- (1) 進路志望達成ができる授業の実現のために、常に授業改善を実施
- (2) 生徒のマインドセットの変更など進路意識の向上のために進路講演会等の実施
- (3) 土曜補習、放課後補習など目的を明示した補習の実施
- (4) 面談旬間等の設定による生徒面談の充実
- (5) 定期試験や模擬試験などの結果のフィードバックの精密化
- (6) 進路情報の提供による保護者との連携

3 部活動の強化

- (1) ガイドラインに沿った部活動指導のための研修
- (2) 適切な技術指導のための外部コーチの依頼
- (3) できる限りの施設設備整備と生徒活動への支援
- (4) 保護者への適切な情報提供による連携

4 地域との連携の強化

- (1) インターンシップとボランティアの積極的な実施
- (2) 各教科（総合的な探究の時間を含む）における探究活動による地域理解
- (3) 地域行事への積極的な参加
- (4) HPの充実など学校活動の発信を活発化
- (5) 社会に開かれた教育課程の実施のための研修